

# ***BOM for Windows Ver.5.0* リリースノート**

Copyright © 2007 SAY Technologies, Inc. All rights reserved.

このドキュメントには、BOM Ver5.0 に関する最新情報が記載されています。

---

## ■ ■ 機能追加・改良 ■ ■

[操作性の向上](#)

[画面の見やすさ](#)

[監視時刻の正確さ](#)

[セキュリティの強化](#)

[代理監視の独立性](#)

[監視項目数の制限](#)

[ライセンスマネージャ機能](#)

[コントロールマネージャ\(新コンポーネント\)](#)

[テキストログ監視の標準装備](#)

[イベントログ監視のフィルタリングの強化](#)

[ネットワークインターフェース監視の標準装備](#)

[Ping 監視の標準装備](#)

## ■ ■ 注意・制限事項 ■ ■

[インストール関連](#)

[BOM 5.0 マネージャ](#)

[BOM アーカイブコンソール／BOM アーカイブサービス](#)

[オラクルオプション関連](#)

[Citrix オプション関連](#)

---

## ■ ■ 機能追加・改良 ■ ■

### 操作性の向上

#### 1. BOM マネージャの操作性向上

BOM 4.0 では、各監視項目の監視設定を確認するのに各監視項目のプロパティを開いて確認する必要がありました。BOM 5.0 では、グループノードを開くと各監視項目に設定された内容がリザルトペインに表示されます。よって管理者はプロパティを開かずに画面にて監視設定内容を把握できます。また、アクション項目(BOM 4.0 ではイベント処理)については、各監視項目をクリックするだけで表示されるようになりました。BOM 4.0 ではイベント処理はイベント処理ノードをクリックして確認しなければいけませんでした。より簡単な操作で監視設定が確認できるようになりました。

#### 2. 通知とアクション(リカバリ処理)の分離

BOM 4.0 では通知とアクションは同じイベント処理という形で設定する必要がありました。BOM 5.0 では通知ノードを別のノード設定で設定可能にし、同じ通知設定を複数設定する手間を省略できるようになりました。また従来の設定のように個別で監視項目に対して通知を別途行いたい場合には今まで通りの設定も可能です。基本的に通知アクションは一カ所で、リカバリ処理は監視内容の結果によって違うので個別に設定できるようになっています。

#### 3. 代表ステータスの廃止

管理者に理解が難しかった集中監視コンソールへの通知のための代表ステータス通知を廃止にしました。よって、面倒な設定項目を減らし、管理者の手間を減らすようにしました。なお、集中監視コンソールでのステータス収集は集中監視コンソールのポーリングで行うように変更しております。今まで通り集中監視コンソールで全体のステータス把握は行えます。

#### 4. 各オプションのインストールの簡素化

BOM 4.0 では各オプションについては、それぞれ別パッケージになっていました。BOM 5.0 からは、インストールはカスタムインストールで行い、ライセンスキーによるアクティベーションを行います。必要なオプションのライセンスキーを入力することで各オプションが稼働するようになります。

#### 5. 各監視項目の設定画面の設定しやすさ

アイコンを一新し、見ただけでどの種類の監視項目かがわかるようになりました。また、監視項目の監視設定画面を吟味し、刻々と変化する値の場合(プロセッサ監視)には実際の動きを目で確認しながらしきい値を設定できるようになりました。またしきい値の設定もスライダーを使用した視覚的にわかりやすい設定方法になりました。

#### 6. BOM for Windows アーカイブマネージャの操作性向上

BOM 4.0 のアーカイブコンソールは監視設定のノードとログやグラフを見るノードが別になっており、管理者がドラッグアンドドロップしないとデータを見るできませんでした。BOM 5.0 では、名称もアーカイブマネージャと変更し、監視設定ノードの各監視項目をクリックすることでアーカイブ収集したデータを見ることができます。従来のようなノードへのドラッグアンドドロップのような操作をしなくても、直

感的に操作できるようになりました。

## 画面のみやすさ

### 1.集中監視コンソール画面の一新

集中監視コンソールのデザインを一新しました。モニターに表示されているときは遠くからでも全体のシステムがどんな状態にあるのかをサマリーのアイコンで大きく表示するようにしました。システム全体の中で一番状態が危険なものがアイコン表示され、管理者は一目で集中監視コンソールに登録されたコンピュータの中で一番危険な状態を把握できます。BOM 4.0 ではツリー上のステータス単位で見えていましたが、BOM 5.0 は一番大きなアイコンを見ていただくことで異常が起きている状態を把握できます。

### 2.代表ステータスの廃止

管理者に理解が難しかった集中監視コンソールへの通知のための代表ステータス通知を廃止しました。面倒な設定項目を減らし、管理者の手間を減らすようにしました。なお、集中監視コンソールでのステータス収集は集中監視コンソールのポーリングで行うように変更しております。今まで通り集中監視コンソールで全体のステータス把握は行えます。

## 監視時刻の正確さ

### 1.時刻に正確な監視

BOM 4.0 では、監視実行に時間がかかった場合、監視間隔が設定してあるにもかかわらず、監視時刻がずれていく仕様でした。BOM 5.0 では、監視実行時刻を秒単位で正確に行うように変更しました。この変更により、今まで以上に厳密な時刻での監視が可能になりました。

なお、監視実行に時間がかかり、次の監視実行時間になった場合には監視がスキップされ、そのスキップされた内容がヒストリログとして記録が残ります。

## セキュリティの強化

### 1.BOM マネージャのアクセス範囲を制限

セキュリティ確保のためサーバー管理者が監視設定のできる IP アドレスの範囲設定を決めたり特定のコンピュータに限定したりすることが可能になりました。

### 2.管理モードと参照モード

1 台のコンピュータに監視設定変更操作ができるのは、同時に一人に限定しました。1 台のコンピュータに複数のサーバー管理者が同時アクセスする場合には参照モードで参照することができます。

## 代理監視の独立性

### 1.インスタンスの概念導入

従来は「監視サービス」という名称で 1 コンピュータに対して監視を行うコアなサービス(監視サービス)は1つでした。BOM 5.0 からはインスタンスという名称に変更し、1 コンピュータに対して複数のインスタンスを動作させることを可能にしました。従来の代理監視も1 インスタンスとして動作するようになりました。この変更により、代理監視を停止するのに、代理監視元の監視を中断せずに、独立して

代理監視のみの停止及び設定が可能になりました。

## 監視項目数の制限

### 1. インスタンス毎に 200 監視項目まで

BOM 4.0 では監視対象は 799 対象項目、監視項目は 99 項目まで設定できました。しかしこれは管理上現実的ではなく、また BOM の監視によりマシンに負荷をかける可能性がありました。また、監視サービスが停止してしまうと、設定していた監視項目が機能しなくなるので、監視できなくなるリスクもありました。BOM 5.0 では、管理者にご安心してご使用いただくために、1つのインスタンスに対して監視項目を 200 個に制限しました。もし 1 台のマシンで 200 個以上監視を行う場合、もう一つインスタンスを作成してそのインスタンスでさらに 200 個の監視項目を実行することになります。この機能により監視サービスが停止することによる影響範囲を最小限にとどめることができます。

## ライセンスマネージャ機能

### 1. ライセンスの割り当て変更による評価版から製品版への移行

BOM 4.0 では、インストール時にライセンスキーを入力していただくことで BOM のインストールが完了しました。BOM 5.0 では、あらかじめご購入いただいたライセンスキーを入力していただき、監視したい監視サービス(インスタンス)と割り当てすることで動作させることができます。このキーを入力したり、割り当てしたりする機能がライセンスマネージャといわれるものです。評価版からご購入いただいたライセンスキーに変更する際にも、今まで評価版であったキーをはずして、ご購入いただいたライセンスキーに割り当てしていただくことで、簡単に評価版で設定していただいた設定そのままに本番に移行できます。

## コントロールマネージャ (新しいコンポーネント)

### 1. 各コンポーネントとその制御やバックアップ等を行うツール

BOM コントロールパネルには、BOM for Windows マネージャ、システム設定ウィザード、集中監視コンソールの起動、インスタンスの開始と終了を行うことができます。またバックアップ/リストアウィザードおよび、設定収集配布ツールが含まれています。

## テキストログ監視の標準装備

### 1. テキストログを柔軟に監視する機能を標準装備

BOM 4.0 では、拡張監視オプションであった、テキストログ監視を GUI で設定できるよう標準装備しました。データベース、ウェブサーバ等で記述されるログローテーションの監視や正規表現による方法等、より詳細にテキストログが監視可能になりました。

## イベントログ監視のフィルタリングの強化

### 1. イベントログ監視(除外指定)機能を追加

BOM 4.0 では、監視したいイベントログをターゲットとして指定するイベントログ監視方法でしたが、BOM 5.0 では、それに加えて、監視したくないイベントログを除外していく除外指定方法が可能になりました。この機能によって、最初は大きめにイベントログを監視しておき、監視範囲を狭めていき、適切な監視設定ができるようになりました。また、現在イベントビューアで見られるイベントログにどのアプリケーション(ソース)がどれだけの個数のイベントログが記述されているかが統計情報としてリストアップされるので、その統計データを参照しながら設定できます。

## ネットワークインターフェース監視の標準装備

### 1.ネットワーク監視の独立化

BOM 4.0 では、パフォーマンス監視でのオブジェクト選択や、テンプレートを使用して設定していたネットワークインターフェースの監視を GUI で新規メニューから設定できるようになりました。設定方法はネットワークカードのネットワークトラフィックデータをリアルタイムに見ながらしきい値を設定することができます。

## Ping 監視の標準装備

### 1.Ping 監視の独立化

BOM 4.0 では、拡張監視オプションであった、Ping 監視を標準装備しました。このことにより、ネットワーク監視機器やコンピュータの Ping による生死監視が可能になりました。

---

## ■■ 注意・制限事項 ■■

### インストール関連

- ・ CD-ROM を入れてもセットアップを選択する画面が起動しない場合には、エクスプローラを開きます。BOM のメディアを挿入した CD ドライブをクリックし、autorun.hta をダブルクリックします。
- ・ インストール時にインストールを実行しているアカウントに管理者権限があるかどうかをチェックします。アカウントに管理者権限がない場合、ランタイム エラー メッセージが表示されます。
- ・ Windows 2000 でインストールランチャーをお使いいただく場合、環境によっては 空ページの Internet Explorer が起動する場合がございますが、環境に依存した動作であり 問題ございません。Internet Explorer を終了し、セットアップを進めてください。
- ・ 標準設定でインストールされるのは、ヘルパーサービス、監視サービス、BOM 5.0 マネージャです。
- ・ InstallShield Scripting Runtime がインストールされていない場合、次のようなエラーメッセージが表示されます。

「1607:InstallShield Scripting Runtime をインストールできません。」

インストールを中断し、BOM 5.0¥BOM5 フォルダ内にある ISScript11.MSI を実行し、InstallShield Scripting Runtime をインストールします。その際、InstallShield より「1607:InstallShield Scripting Runtime をインストールできません」と表示される場合がありますが、この原因は以下の問題が考えられるので、以下の該当する原因を取り除いた上で、再度セットアップを行ってください。

#### 原因

- ◇ subst コマンドを使用して作成した仮想ドライブからセットアップ プログラムを実行している。
- ◇ ドライバ IDriver.exe が正しく登録されていない。
- ◇ インストーラ Msiexec.exe が正しく登録されていない。

- ◇ ユーザー アカウントに、C:\Windows\Installer フォルダにアクセスするためのアクセス許可がない。
- ◇ 古いバージョンの Windows インストーラ エンジンが、現在利用できなくなっているネットワークドライブからインストールされた。
- ◇ コンピュータにソフトウェアをインストールするためのアクセス許可がユーザー アカウントにない。
- ◇ Windows インストーラ ベースの別のセットアップ プログラムが実行されている。
- ◇ Windows XP が破損している。

## BOM 5.0 マネージャ

- ・ 接続パスワードはインストール時に変更していなければデフォルト bom (英数小文字) です。
- ・ インスタンス名は必ず 15 文字までにしてください。使用できる文字は半角英数文字の a-z,A-Z,0-9,-(ハイフン),\_(アンダーバー)です。
- ・ Windows Server 2000 上の BOM 5.0 マネージャと Windows Server 2003 上の BOM 5.0 マネージャではユーザーインタフェースが異なります。詳細はユーザーズマニュアルをご覧ください。
- ・ インスタンスの作成時(ローカルシステムアカウントではなく、他のアカウントを指定する時)、監視に利用するアカウントに正常なアカウントを指定しても、「ログオンの確認ボタン」でエラーになります。この現象を回避するには、アカウントに対して OS のローカルセキュリティポリシーの設定を行う必要があります。この OS のローカルセキュリティポリシーの設定で設定するアカウント権限が Windows2000 と Windows2003 で以下のように異なります。またこのアカウントは代理先監視対象コンピュータでも同一のアカウント/パスワードと同一アカウント権限を付与して下さい。
  - 1.Windows2003:「バッチジョブとしてログオン」「サービスとしてログオン」「プロセスレベルトークンの置き換え」「プロセスのメモリクォータの増加」
  - 2.Windows2000:「バッチジョブとしてログオン」「サービスとしてログオン」「プロセスレベルトークンの置き換え」「オペレーティングシステムの一部としての機能」
- ・ インスタンス作成時にアカウントとパスワードを指定します。この操作の後、各インスタンスのサービスのサービスアカウントが作成されます。しかし、BOM の内部で保持しているアカウントとインスタンスのサービスアカウントは連動していません。もし、各インスタンスのアカウントを変更して、同時にサービスアカウントを変更するときは、OS の別途管理ツールのサービスからアカウント変更を行って下さい。
- ・ ローカルコンピュータの監視では、必ずサービスのアカウントはローカルシステムアカウントになりますが、これを変更したい場合には、Windows 標準の管理ツールのサービスからアカウント変更を行って下さい。アカウント変更を行った場合でも、「バッチジョブのログオン」「サービスとしてのログオン」「プロセスレベルトークンの置き換え」「プロセスのメモリクォータの増加」の権限があれば、ローカルコンピュータのサービスアカウントに希望のアカウントを設定しても監視及びアクションに問題はありませぬ。

- ・ 評価ライセンスでは、製品版と同じ機能を備えた評価版を 30 日間試用できます。評価期間終了後に引き続き BOM for Windows Ver.5.0 を使用するためには、有効なライセンス キーを入力する必要があります。
- ・ BOM の監視設定の変更を行うには、インスタンスを停止する必要があります。
- ・ 監視間隔を 5204 分(87 時間、4 日)以上に設定した場合、監視項目を右クリック→ログの表示を実行した場合に異常終了します。監視間隔は必ず 5000 分以内に設定してください。
- ・ メール送信の SMTP 認証については、CRAM-MD5 方式と PLAIN 方式に対応していますが LOGIN 方式に対応しておりません。Exchange Server の場合、SMTP 認証は GSSAPI、NTLM、LOGIN の 3 種類のため、BOM 5.0 の本リリースでは Exchange の認証はサポートしておりません。
- ・ リモート接続時に BOM for Windows (ローカル)のスナップインとリモート スナップインの間、または 2 つのリモート スナップインの間でインスタンスあるいは監視設定をドラッグ アンド ドロップすることはできません。
- ・ 監視設定のエクスポートとインポート実行時のエクスポート先のフォルダは必ず、ログオンユーザが書き込める権限のあるフォルダを指定してください。書き込める権限のないユーザが書き出すとエラーになります。
- ・ アクション項目は、実行時のしきい値が等しければ数値の順に実行されるので、アクション項目 ID の変更機能はとても重要です。アクション項目の詳細については、「ユーザーズマニュアル」6 アクション項目 を参照してください。
- ・ ID の変更後は一つ上のノードを選択しないと変更が表示されません。複数監視グループ、監視項目、アクション項目、通知項目を一度に変更する場合、一つずつ上のノードを選択して表示されたのを確認してから次の変更を行って下さい。
- ・ [監視グループ]のコピーは、[監視グループ] アイコンを右クリックし、[貼り付け] をクリックするだけでコピー自体は行われます。ただし、最初に [監視グループ] アイコンを左クリックして選択していない場合は、コピーされたグループは、グループ アイコンを左クリックするまで表示されません。続いて、コピーされたグループは [監視グループ] リザルトペインの BOM ツリーに表示されます。
- ・ 監視項目のアイコンをクリックすると登録されているアイコンをお客様のご要望に応じて変更可能です。ただ、アイコンの右端に関しては予備領域として空白になっていますのでご注意下さい。
- ・ パフォーマンス監視の中の Processor オブジェクトの Processor Queue Length は BOM の監視項目に応じて増加します。しきい値を設定するときには現在値の取得で監視の値を参考にして、設定してください。
- ・ フォルダ・ファイル監視項目で指定するパスに円記号「¥」が付いている場合、パスの最後についている円記号は削除する必要があります。削除しないとエラー メッセージが表示されます。
- ・ フォルダ・ファイル監視項目で「参照」ボタンをクリックして表示されるダイアログボックスは、通常の Explorer と挙動が異なります。フォルダを選択して「Enter」キーを押下した際、そのフォルダに階層を移動せず、[OK]ボタンの押下と同じ動作になります。

- ・ 代理監視で監視対象サーバで運用している USB ディスク等のリムーバブル HDD を監視する場合、OS にマウントした後、監視対象 OS の再起動を実行してください。OS を再起動しなければ代理監視実行サーバのディスク容量監視から正しく認識されない場合があります。
- ・ サービス監視、ポート監視では他の監視項目と違い、文字列が監視結果となっているのでログのグラフ作成はできません。
- ・ プロセス監視で、プロセスまたはサービスを選択していない状態で、現在値の取得あるいは監視を実行すると、16384 という監視値になります。
- ・ パフォーマンス監視等、監視取得値が 100%を超えるものがありますので、しきい値の入力は 100%以上入力できるようになっています。
- ・ プロセッサ監視項目、メモリ監視項目、ネットワークインターフェース監視で、しきい値に 101%以上の値を手入力にて指定した場合、しきい値のグラフ(メモリ)表示が上 2 桁の値となります。つまり 101%を指定した場合、閾値のグラフ(メモリ)表示は 10%が指定された状態となります。
- ・ ディスクドライバによっては大量のファイル複製を行っている間にディスクアクセス監視した場合、監視値が不定期で N/A になることがあります。
- ・ イベントログ監視(除外指定、選択指定)の設定をする場合には、[設定タブ]のプロパティを開き、OK ボタンまたは適用ボタンをクリックしてください。OK ボタンをクリックするまでは設定が正常に保存されません。
- ・ イベントログ監視で収集されたログや履歴の削除を行う場合、インスタンスの右クリックで表示される「すべてのログのクリア」を実行する必要があります。ただし、この場合は監視ログも消えてしまいます。イベントログ監視で収集されたログと履歴のログのみを消す場合には、`$(InstanceID)\log\NtEventLog.db` を直接削除してください。
- ・ イベントログ監視でのテスト実行でのタイムアウト時間は 2 分です。テスト項目のエラーのメッセージが出た場合には 2 分間タイムアウトするまで待つ必要があります。
- ・ イベントログ監視(選択指定) で分類 ID に誤った ID を指定した場合、プロパティ画面を再度開くと、「分類 ID の指定」ラジオボタンにチェックがついているにも関わらず、入力欄がグレースアウトされた状態となります。再度選択しなおすと入力可能になります。
- ・ シャットダウン等のメッセージ送信で挿入できる変数がありますが、必ずメッセージ送信は事前テストを行って確認してからご使用下さい。デフォルトの値を使用する場合には変換されますが、カスタマイズする場合には変換されない変数がある場合があります。
- ・ ネットワークインターフェース監視で新規作成時には必ず NIC のインターフェースを選択ください。デフォルトは設定されていません。
- ・ 「通知」のアクションでは、設定したアクションは複数の監視項目が対象(設定にて、対象の範囲を設定が可能です)となりますが、実際に実行されるのは、初めに処理されたものとなり、その後の処理はスキップされます。なお各監視項目に作成したアクションについては全てのアクションが条件通りに実行されます。通知やアクションに漏れはありません。但し、通知やアクションの実行に時間がかかり、処理が完了する前に、再度監視が実行され、通知やアクションに対する実行要求が出された場合(前回の処理が完了していない状態)には処理がスキップされます。このような場合には、監視の間隔を調整いただく必要があります。

- ・ [ポップアップ 通知] アクションの[設定] タブで「通知先を指定(S)」には、IP アドレスを指定可能ですが、localhost および 127.0.0.1 は指定できません。
- ・ [ポップアップ 通知] アクションの通知メッセージは 2000 文字まで指定可能ですが、実際にポップアップされるのは OS の仕様で 887 文字までです。
- ・ BOM 5.0 マネージャを使用中にポップアップメッセージが表示された場合、そのメッセージを閉じない限りマウスを BOM 5.0 マネージャにフォーカスし設定を参照することはできません。
- ・ [SNMP トラップ送信] アクションで送信する時のグループ名、監視名、アクション名は 63 文字以内にしてください。また、カスタマイズ Trap のメッセージは 255 文字以内にしてください。この制限以上の文字を入力するとエラーになり、SNMP トラップが実行されません。
- ・ 代理監視の場合の[SNMP トラップ送信] アクションは、代理監視元コンピュータではなく、代理監視コンピュータ先の IP アドレスが AgentAddress として SNMP マネージャに通知されます。SNMP マネージャには代理監視先のコンピュータの IP アドレスも登録するようにしてください。
- ・ 代理監視でそのインスタンスを停止したとき、イベントログに代理監視に設定したアカウントのユーザー名で次の Userenv の警告メッセージが書き込まれます。「クラス レジストリ ファイルをアンロードできません。ほかのアプリケーションまたはサービスによって使用されています。ファイルが使用されなくなった後にアンロードされます。」
- ・ 代理監視のユーザーアカウントがアドミニストレータグループに所属していない場合にはアプリケーションエラーが発生し、MMC が終了することがあります。その場合には、代理監視のユーザーアカウントをアドミニストレータグループに所属させてください。
- ・ [カスタムアクション]でコンソールプログラムをカスタムアクションとして設定する場合には、BOM 監視サービスと BOM ヘルパーサービスのサービスアカウントをローカルシステムアカウントとし、デスクトップとの対話にチェックしてください。代理監視の場合にはコンソールプログラムは指定できません。
- ・ MMC ハングアップによる強制終了後、同インスタンスへの接続しようとしても「管理者モードはすでに使用されています」というエラーメッセージが表示され、接続できなくなります。対処方法は、BOMHelper サービスをコントロールパネルのサービスから再起動してください。なお、監視サービスは起動しているので監視は継続中です。
- ・ ある監視項目で監視実行時間が大きいとき(例えば大量のイベントログを監視している時等)、その監視項目の監視実行中に監視サービスが停止した場合にはインスタンスアイコンが灰色になり、BOM マネージャの操作ができません。監視が終了すると操作可能ですが、インスタンスアイコンは灰色のままです。インスタンスの再接続あるいは BOM 5.0 スナップインを選択して最新の情報に更新してください。
- ・ また、本現象の後、テキストログ監視、イベントログ監視の場合、もし次の監視が実行されない場合には、監視項目を再度新規作成するか、<インストールディレクトリ>\Instance\<該当インスタンス名>\patientdata\GRP<該当グループ No.>MON<該当監視項目 No.>のファイルを削除してください。
- ・ ディスク I/O の高負荷時にディスクアクセス監視すると監視値が N/A や、大きいデータを表示することがあります。この原因はディスク関連のパフォーマンスデータによるものです。

- WindowsXP マシン上でたとえば以下のパフォーマンス監視を作成中、マウスのホイールやキーボードの上下を用い、パフォーマンスオブジェクトに以下を選択した場合、まれにエラーが発生することがありますが監視そのものは正常に動作いたします。

ASP.NET Applications  
ASP.NET

- ディスク容量監視では前回の値については端数を切り捨てて表示しています。たとえば 12.7GB の値であっても 12GB に表示されます。ご注意ください。
- 99 監視項目および各監視項目に付随する 99 アクションが入っていたときに BOM5 マネージャーで、監視グループをポイントして右クリックしメニューを出しても「削除」が選択できないことがあります。この場合には、「BOM 5.0 マネージャー」を一度終了し、再度「BOM 5.0 マネージャー」を起動してください。
- BOM5.0 設定収集配布ツールは Windows Server 2003 環境のみ動作します。Windows 2000 Server/AdvancedServer/Professional 及び Windows XP 環境では動作しません。
- リストア時にリストア先のディスク容量が不足している時には「指定されたパスが見つかりません」というメッセージが表示される。

## BOM アーカイブコンソール／BOM アーカイブサービス

- アーカイブマネージャのアーカイブサーバー接続時のデフォルトパスワードは Bom5Archive です。
- アーカイブコンソールに 2 台以上のアーカイブサーバーを登録、接続している場合、アーカイブコンソール上でそのうちの 1 つの「BOM アーカイブ」のプロパティから表示設定を変更すると、他のすべてに接続された表示設定も変更されます。
- アーカイブマネージャで、アーカイブサーバーに接続する際に、「入力したパスワードを保存する」のチェックボックスがありますが、ここをチェックしただけではパスワードが保存されません。パスワードの保存をするには、MMC のコンソールの設定を BOM Archive Manager.msc に保存しますか? というメッセージで[はい(Y)]ボタンを選択する必要があります。しかし、アーカイブマネージャを起動し、サーバ、パスワードを入力した後すぐに終了すると、前述の保存を確認するメッセージが表示されません。そのため、パスワードは保存されず、もう 1 度パスワード入力が必要になってしまいます。
- アーカイブマネージャで、ログのグラフ表示に切りかえる際、画面表示に初期化された画面が一瞬画面出力されますが、問題ありません。
- アーカイブマネージャで、ヘルプを表示しても、BOM のヘルプファイルは表示されません。
- アーカイブを設定した状態で、監視グループ/監視項目の ID を変更するとデータの連続性が保てません。ID を変更すると変更した ID のデータが前に設定されていたデータの続きとして保存されます。もし、ID を変更し、データの連続性を保つには、1. アーカイブサービスを停止し、2. アーカイブサーバーのユーティリティでアーカイブサーバーのバックアップを行って、3. 新規にアーカイブサーバーを作成して、4. 再度アーカイブサービスを起動してください。

## オラクルオプション関連

- ・ 各監視項目において接続設定行わずに監視を実行した場合、[ログ]-[履歴]-[監視]に「パラメータ設定に失敗しました。」というメッセージが記述されます。また、そのエラーメッセージが出力された後、監視が無効になります。無効になった後は監視が実行されません。必ず、監視項目を作成した後は、ログが連続で出力されるかをご確認下さい。もし、監視が行われていない場合には、接続設定を再度確認してください。
- ・ オラクルオプションのテンプレートを利用する場合、設定した「Oracle 接続情報」を監視項目に反映させるため、以下の手順を行なう必要があります。※テンプレートをそのまま使用すると監視が失敗します。
  - 1.「Oracle 接続情報」タブの登録を確認。接続情報が登録されていない場合、登録操作を行なってください。
  - 2.テンプレートの各監視項目について「プロパティ」画面を開き、「Oracle 接続」タブで接続情報が正しく表示されることを確認し「OK」ボタンを押してください。

## Citrix オプション関連

- ・ WTS クライアント通知の詳細設定2で“0 件”の指定はできません。0 件を指定すると、エラーとなります。